

科目名	日本語リテラシー【看護学部】			ナンバリング	GEN621	授業形態	演習
対象学年	1 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	松本麻子	担当教員	久呉高之、玉懸元、松本麻子				

授業の概要	この科目は、全学の学生が共通して身につけるべき、日本語の基礎的な書き方を実践的に学ぶための演習である。文章表現の基本を理解し、今後の大学生活に必要な論理的な文章の書き方ができるようになることを目標とする。日本語の特徴を知り、わかりやすい文章を書くための方法を学び、2年次以降の学びに結びつく力を養うことを目的とする。						
到達目標	1. 文章を書く時の基本を理解し、それを実践できる。 2. 自分の考えを客観的に伝えることができる。 3. PREP方を用い、論理的な文章を書くことができる。 4. 基礎的な表現力を身につけ、それを実践し、わかりやすい文章を書くことができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	書けない漢字はすぐに調べること。添削され返却された課題は、必ず読み返すこと。人に読んでもらうことを意識し、大きくはっきりと丁寧な文字を書く習慣をつけること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【いわき明星大学のディプロマポリシー】						
	○	1. 幅広い教養と専門分野についての十分な知識を身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 人々の多様な考えやニーズを理解し、他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	3. 広い視野と判断力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態にも適切に対処することができる。					
	○	4. 地域社会の一員としての自覚をもち、地域に貢献できる社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
・期限に遅れず課題を提出できる。 ・文章の書き方に従った、誤字脱字が少なく、主語のねじれもないわかりやすい文章が概ね書ける。 ・PREP法を用いた論理的な文章を書くことができる。 ・論理的な文章を作成する際に、具体例を入れることができる。 ・自分の意見に基づき文章を作成できることがある。	・期限までに余裕を持って、課題を提出できる。 ・文章の書き方に従った、誤字脱字がなく、主語のねじれもない、わかりやすい文章が常に書ける。 ・PREP法を用いた破綻のない論理的な文章を書くことができる。 ・論理的な文章を作成する際に、適切な具体例を入れることができる。 ・一般論ではなく、自分の意見に基づき文章を作成できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○	○	50%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○	○	20%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○	○	30%

課題、評価のフィードバック	1. 課題を添削し返却する。 2. 前回の課題の留意点について説明し、優れたものを紹介する。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	授業の進め方、文章を書くための心得	授業の進め方、成績の基準等を説明する。日本語の様々な表現方法を知る。表現することとは何かを学ぶ。	
	第2回	文章の構成を考える①	文章の構成や段落とはどのようなものかについて学ぶ。	
	第3回	文章の構成を考える②	文章の構成を考える。場面転換のポイントは何かを学ぶ。	
	第4回	文章の基礎を学ぶ①	主語と述語の関係について説明する。わかりやすい文章の書き方を学ぶ。	
	第5回	文章の基礎を学ぶ②	句読点の打ち方について知る。わかりやすい文章の書き方を実践する。	
	第6回	文章の基礎を学ぶ③	新聞の記事に見出しが付けられるようにする。文章を読み、書かれている内容を正確に把握する方法を学ぶ。	
	第7回	論理的な文章①	PREP法を用い、自分の考えを正しく相手に伝えることを学ぶ。	
	第8回	論理的な文章②	主観的にならず反論する方法を学ぶ。	
	第9回	気になる日本語を知る	人を不快にさせる表現や、誤った言葉遣いについて考える。	
	第10回	敬語を学ぶ①	敬語のしくみを学ぶ。	
	第11回	敬語を学ぶ②	敬語の使い方を学ぶ。	
	第12回	手紙の書き方を学ぶ	手紙の書き方を学ぶ。敬語を用いてお礼状を書くことを実践する。	
	第13回	表現力を身につける①	メールのルールや書き方を学ぶ。	
	第14回	表現力を身につける②	自分の語彙力を知る。語彙を増やすにはどうするかを学ぶ。	
	第15回	論理的な文章③	PREP法を用いた論理的な文章が書けるようになったか確認する。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		演習形式で行う。授業ごとに課題を出すので、必ず提出すること。		
授業外学習の指示		新聞や新書を読み、社会情勢に関心を持つこと。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	教科書は指定しない。プリントを配付する。
参考書	適宜、授業にて紹介する。
参考URLなど	インターネットの情報は用いない。
その他	

科目名	日本語リテラシー【薬学部】			ナンバリング	GEN621	授業形態	演習
対象学年	1 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	松本麻子	担当教員	久呉高之、玉懸元、松本麻子				

授業の概要	この科目は、全学の学生が共通して身につけるべき、日本語の基礎的な書き方を実践的に学ぶための演習である。文章表現の基本を理解し、今後の大学生活に必要な論理的な文章の書き方ができるようになることを目標とする。日本語の特徴を知り、わかりやすい文章を書くための方法を学び、2年次以降の学びに結びつく力を養うことを目的とする。						
到達目標	1. 文章を書く時の基本を理解し、それを実践できる。 2. 自分の考えを客観的に伝えることができる。 3. PREP方を用い、論理的な文章を書くことができる。 4. 基礎的な表現力を身につけ、それを実践し、わかりやすい文章を書くことができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	書けない漢字はすぐに調べること。添削され返却された課題は、必ず読み返すこと。人に読んでもらうことを意識し、大きくはっきりと丁寧な文字を書く習慣をつけること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【いわき明星大学のディプロマポリシー】						
	○	1. 幅広い教養と専門分野についての十分な知識を身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 人々の多様な考えやニーズを理解し、他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	3. 広い視野と判断力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態にも適切に対処することができる。					
	○	4. 地域社会の一員としての自覚をもち、地域に貢献できる社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
・期限に遅れず課題を提出できる。 ・文章の書き方に従った、誤字脱字が少なく、主語のねじれもないわかりやすい文章が概ね書ける。 ・PREP法を用いた論理的な文章を書くことができる。 ・論理的な文章を作成する際に、具体例を入れることができる。 ・自分の意見に基づき文章を作成できることがある。	・期限までに余裕を持って、課題を提出できる。 ・文章の書き方に従った、誤字脱字がなく、主語のねじれもない、わかりやすい文章が常に書ける。 ・PREP法を用いた破綻のない論理的な文章を書くことができる。 ・論理的な文章を作成する際に、適切な具体例を入れることができる。 ・一般論ではなく、自分の意見に基づき文章を作成できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○	○	50%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○	○	20%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○	○	30%

課題、評価のフィードバック	1. 課題を添削し返却する。 2. 前回の課題の留意点について説明し、優れたものを紹介する。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	授業の進め方、文章を書くための心得	授業の進め方、成績の基準等を説明する。日本語の様々な表現方法を知る。表現することとは何かを学ぶ。	
	第2回	文章の構成を考える①	文章の構成や段落とはどのようなものかについて学ぶ。	
	第3回	文章の構成を考える②	文章の構成を考える。場面転換のポイントは何かを学ぶ。	
	第4回	文章の基礎を学ぶ①	主語と述語の関係について説明する。わかりやすい文章の書き方を学ぶ。	
	第5回	文章の基礎を学ぶ②	句読点の打ち方について知る。わかりやすい文章の書き方を実践する。	
	第6回	文章の基礎を学ぶ③	新聞の記事に見出しが付けられるようにする。文章を読み、書かれている内容を正確に把握する方法を学ぶ。	
	第7回	論理的な文章①	PREP法を用い、自分の考えを正しく相手に伝えることを学ぶ。	
	第8回	論理的な文章②	主観的にならず反論する方法を学ぶ。	
	第9回	気になる日本語を知る	人を不快にさせる表現や、誤った言葉遣いについて考える。	
	第10回	敬語を学ぶ①	敬語のしくみを学ぶ。	
	第11回	敬語を学ぶ②	敬語の使い方を学ぶ。	
	第12回	手紙の書き方を学ぶ	手紙の書き方を学ぶ。敬語を用いてお礼状を書くことを実践する。	
	第13回	表現力を身につける①	メールのルールや書き方を学ぶ。	
	第14回	表現力を身につける②	自分の語彙力を知る。語彙を増やすにはどうするかを学ぶ。	
	第15回	論理的な文章③	PREP法を用いた論理的な文章が書けるようになったか確認する。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		演習形式で行う。授業ごとに課題を出すので、必ず提出すること。		
授業外学習の指示		新聞や新書を読み、社会情勢に関心を持つこと。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	教科書は指定しない。プリントを配付する。
参考書	適宜、授業にて紹介する。
参考URLなど	インターネットの情報は用いない。
その他	

科目名	日本語リテラシー【健康医療科学部】			ナンバリング	GEN621	授業形態	演習
対象学年	1 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	松本麻子	担当教員	久呉高之、玉懸元、松本麻子				

授業の概要	この科目は、全学の学生が共通して身につけるべき、日本語の基礎的な書き方を実践的に学ぶための演習である。文章表現の基本を理解し、今後の大学生活に必要な論理的な文章の書き方ができるようになることを目標とする。日本語の特徴を知り、わかりやすい文章を書くための方法を学び、2年次以降の学びに結びつく力を養うことを目的とする。						
到達目標	1. 文章を書く時の基本を理解し、それを実践できる。 2. 自分の考えを客観的に伝えることができる。 3. PREP方を用い、論理的な文章を書くことができる。 4. 基礎的な表現力を身につけ、それを実践し、わかりやすい文章を書くことができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	書けない漢字はすぐに調べること。添削され返却された課題は、必ず読み返すこと。人に読んでもらうことを意識し、大きくはっきりと丁寧な文字を書く習慣をつけること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【いわき明星大学のディプロマポリシー】						
	○	1. 幅広い教養と専門分野についての十分な知識を身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 人々の多様な考えやニーズを理解し、他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	3. 広い視野と判断力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態にも適切に対処することができる。					
	○	4. 地域社会の一員としての自覚をもち、地域に貢献できる社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
・期限に遅れず課題を提出できる。 ・文章の書き方に従った、誤字脱字が少なく、主語のねじれもないわかりやすい文章が概ね書ける。 ・PREP法を用いた論理的な文章を書くことができる。 ・論理的な文章を作成する際に、具体例を入れることができる。 ・自分の意見に基づき文章を作成できることがある。	・期限までに余裕を持って、課題を提出できる。 ・文章の書き方に従った、誤字脱字がなく、主語のねじれもない、わかりやすい文章が常に書ける。 ・PREP法を用いた破綻のない論理的な文章を書くことができる。 ・論理的な文章を作成する際に、適切な具体例を入れることができる。 ・一般論ではなく、自分の意見に基づき文章を作成できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○	○	50%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○	○	20%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○	○	30%

課題、評価のフィードバック	1. 課題を添削し返却する。 2. 前回の課題の留意点について説明し、優れたものを紹介する。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	授業の進め方、文章を書くための心得	授業の進め方、成績の基準等を説明する。日本語の様々な表現方法を知る。表現することとは何かを学ぶ。	
	第2回	文章の構成を考える①	文章の構成や段落とはどのようなものかについて学ぶ。	
	第3回	文章の構成を考える②	文章の構成を考える。場面転換のポイントは何かを学ぶ。	
	第4回	文章の基礎を学ぶ①	主語と述語の関係について説明する。わかりやすい文章の書き方を学ぶ。	
	第5回	文章の基礎を学ぶ②	句読点の打ち方について知る。わかりやすい文章の書き方を実践する。	
	第6回	文章の基礎を学ぶ③	新聞の記事に見出しが付けられるようにする。文章を読み、書かれている内容を正確に把握する方法を学ぶ。	
	第7回	論理的な文章①	PREP法を用い、自分の考えを正しく相手に伝えることを学ぶ。	
	第8回	論理的な文章②	主観的にならず反論する方法を学ぶ。	
	第9回	気になる日本語を知る	人を不快にさせる表現や、誤った言葉遣いについて考える。	
	第10回	敬語を学ぶ①	敬語のしくみを学ぶ。	
	第11回	敬語を学ぶ②	敬語の使い方を学ぶ。	
	第12回	手紙の書き方を学ぶ	手紙の書き方を学ぶ。敬語を用いてお礼状を書くことを実践する。	
	第13回	表現力を身につける①	メールのルールや書き方を学ぶ。	
	第14回	表現力を身につける②	自分の語彙力を知る。語彙を増やすにはどうするかを学ぶ。	
	第15回	論理的な文章③	PREP法を用いた論理的な文章が書けるようになったか確認する。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		演習形式で行う。授業ごとに課題を出すので、必ず提出すること。		
授業外学習の指示		新聞や新書を読み、社会情勢に関心を持つこと。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	教科書は指定しない。プリントを配付する。
参考書	適宜、授業にて紹介する。
参考URLなど	インターネットの情報は用いない。
その他	

ループリック

評価規準 項目／観点		レベル高 ← 評価基準 → レベル低		
		例：模範的、レベル3	例：標準、合格、レベル2	例：要改善、不合格、レベル1
1	課題の取り組み方	課題に積極的な姿勢で取り組んでいる。提出期限を忠実に守っている。	課題に前向きに取り組んでいる。提出期限をかなり忠実に守っている。	課題に消極的に取り組んでいる。提出期限を守れないことがある。
2	文章の書き方の基本ができていない (誤字・脱字がない、段落がある、文体に「である」を使う、話し言葉を用いてない)	文章の書き方の基本ができていない。	文章の書き方の基本が概ねできている。	文章の書き方の基本ができていない。
3	論理的な文章が書ける。	破綻のない論理的な文章が書けている。	だいたいにおいて、論理的な文章が書けている。	論理的な文章が書けていないことが多い。
4	具体的な例が挙げられる。	論証に相応しい具体的な例が挙げられる。	論証に相応しい具体的な例を挙げられることがある。	論証に相応しい具体的な例を挙げることができない。
5	自分の意見を述べることができる。	常に社会に関心を持ち、自分の意見を述べることができる。	自分の意見を述べるができるが、主観的であることが多い。	社会に関心が無く、自分の意見を述べることができない。
6	語彙力	語彙力があり正確な表現を用いようと努力し、わからない言葉はそのつど調べている。	言葉の数は少ないが、わからない言葉はそのつど調べている。	言葉の数は少なく、わからない漢字を調べようとしない。
7				